



年頭のご挨拶

あけましておめでとうございます



苦小牧市文化団体協議会

會長 林廣志

二〇二六年の年頭にあたり、新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は猛暑の夏、熊騒動の秋、そして師走の大地震と自然環境に大きな変化があった一年でした。文化・芸術活動は市民文化祭や各種イベントに一般市民の参加が増えてきており、活性化の兆しが見える年になりました。

今年は新たに市民文化ホールがオープンします。斬新なデザインと多様なアイディア満載の施設ですが、問題はそこを拠点として文化活動が展開できるかどうかが重要なのです。

その大きな課題として次世代を担う人材の育成があります。団体は高齢化により活動力も活動量も低下傾向にあります。多くの高齢な会員が思うような活動ができないことを知っていますが、年齢を言い訳にして諦めてはほしくないのです。文化活動に「定年」はありません。

確かにペースはダウンしてきます。ただ早いことが良いことだとは言えません。歩いて初めて車窓からは見えなかつたもの気づくことがあるはずで自分の体調に合わせたスタイルを見つけてください。支えてくれる家族や仲間がいるはずです。人の助けは嫌だと思ふ方もいるかもしれませんが。日本には助け合う、支えあうという「思いやり」があります。これこそが日本の立

化の根幹を形成している誇り高い特徴なのです。

文化は日常生活そのものです。人と人とのコミュニケーションが人生を豊かにするのに役立つと思います。人は一人では生きられないし、成長もしません。家族や仲間たちの協力、さらにライバルたちとの競い合いがなければ成長してこなかったはずです。人との関わりが人を成長させ、文化を豊かなものにしていくものと思っています。そのためには組織というものがいかに必要であるかを知ってほしいのです。

確かに世代間のギャップも著しくなり、言葉も通じないことがあります。だからと言つて突き放しては、文化は継承されていきませう。個性尊重の時代、若者が組織を嫌うのは、組織が自分の個性を失わせてしまうのではないかと恐れているからだと思います。発表の場もインターネットやユーチューブなどに変わり、そこで知り合つた仲間たちとの交流という形態になってきています。

このような時代に、我々一人一人が、何ができるかを考えてほしいのです。

文化を大切にすることは人生を大切すること、文化を楽しむことは人生を楽しむこと、文化を築くことは人生を築くこと、文化の大きな華を咲かせるために、文化団体協議会はみなさんと連帯しての活動が継続できるように、先頭に立ち新たなスタイルを模索してまいります。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げ、新年にあつてのご挨拶といたします。

令和八年新年

頌春

[illegible]

第77回 苫小牧市民文化祭

令和7年10月4日～11月29日



音楽発表会



軽音楽祭



苫小牧市民合唱祭



はすかつぶ演劇祭



市民川柳大会



市民交流将棋大会



市民吹奏楽祭



樽前地区文化祭



勇払地区文化祭



市民参加演劇祭



沼ノ端地区文化祭



市民短歌大会



市民交流囲碁大会



植苗地区文化祭



市民俳句大会



総合展示発表会





表彰式



市長賞



教育長賞



実行委員長賞



市民文芸奨励賞



感謝状



ちよいと一句賞



小中学生作品展賞

絵画



入選作品

ちよいと一句

写真



太陽の 光にエネルギー もらえます
てらされて ひかるすいめん ほうせきだ
光る帯 海に残して 秋の暮
海の上 日光の道 きりひらく
樽前山 夕日を浴びて 美しき

矢口 璃子
嶋岡 悠
沼田 泥舟
大串 昂心
吉度 厚彦

秋夕日 枯れた花にも 影がある
早朝の 水面に響く 開花音
パカン・ポカンと 会話のごとく
ぴかぴかと ゆうひがしずむ はすのはに
彩りに 満ちたる 池や秋の暮
はすのはな 夕日にあたり うれしそう

中道 攻太
八田 芳子
森岡 美怜
櫻井 伸良
大田 英祐

小中学生作品展 文団協会会長賞作品



粥見 優



甲野 朝陽



田中 ひまり



高橋 杏実



松嶋 琉華



高橋 奈々



荒関 紗耶可



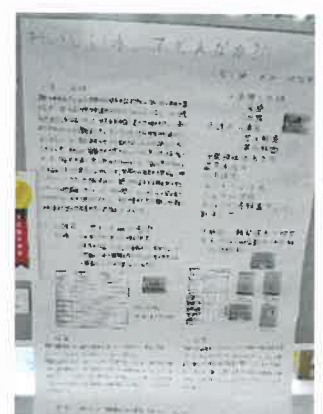
山田 真子



三浦 芽依



海野 太希



不川 裕理奈



新年の句

昇竜のごとき工煙大旦

(大坂清子句)

福だるま残業多き子の机

(名取光恵句)

鏡餅平和願ひて重ねけり

(砂田きぬ代句)

初電話それとなく聞く

暮らし向き (坂口悦子句)

一筋の燐寸の明り初電

(墨谷真澄句)

大旦(元旦の意) 福達磨(神棚に飾り幸せを祈る達磨)

鏡餅(供え餅) 初電話(その年の初めての電話)

初電(元日になって初めて煮炊きをすること)

どれも新年の季語で新しい年の始まりの季語です。

令和7年度苫小牧市文化奨励賞表彰



令和7年度 苫小牧市文化奨励賞に、文団協加盟団体の苫小牧合唱連盟会長、佐々木徹氏、苫小牧市立和光中学校吹奏楽部、苫小牧東高等学校演劇部が表彰されました。

誠におめでとうございます。

文化基金へのご協力に感謝！

文化基金へのご協力、ありがとうございました。
会報138号以降のご寄付は下記の通りです。

(令和7年6月1日～令和8年1月5日)

記

◎苫小牧みずゑ会	11,410円
◎苫小牧三曲会	10,000円
◎苫小牧地区民謡連合会	5,000円

編集後記

苫小牧市民会館、文化会館が、3月31日をもって閉館となります。苫小牧市内の行事を永年、育んできた会場がなくなる事が寂しいです。閉館までの間、両館では、ありがとう・さよならコンサート等が行われます。

最後に、皆さんで「ありがとう」のことばをもとに、訪れてみてはどうですか。そして、苫小牧市民文化ホールが3月1日にオープンいたします。新しいホールでも文化芸術に触れるたくさんの機会を期待しております。このことにより、市民の文化維持の衰退を止めることができると確信しております。どうか、会員の皆様の健康で充実した活動が、今年も出来ますことを望みます。



文団協「はばたき」No.139

発行日／令和8年1月10日

発行所／苫小牧市旭町2丁目8番19号 文化会館内
苫小牧市文化団体協議会

発行者／会長 林 廣志

編集者／事務局長 松原 敏行

TEL・FAX (0144) 36-3491

E-mail : bundankyou.matsu@aioros.ocn.ne.jp

ホームページ : <https://www.tomabundankyou.com/>